

# 創立91年 広島国際学院 報

建学の精神  
教育は愛なり

第108号  
平成31年1月発行



## 特集 創立90周年記念行事

### 目次

特集 創立90周年記念行事	1
特集 高校新校舎落成式	2
先進に学び、未来へつなぐ 工学部	3
積極的な学外交流、経験を糧に 情報文化学部	4
深く広い学びが支える人間力 総合教育センター	5
整備士の夢に向かって発進 短期大学部	6
高校から発信	7・8
中学校開校に向けて	9
第51回高城祭「Re:start」を終えて	10
渡辺弘基氏講演会	10
愛知工科大学自動車短期大学との相互評価	11
今後の行事予定	11

### 高校から発信

整備士の夢に向かって発進

### 短期大学部

深く広い学びが支える人間力

### 総合教育センター

積極的な学外交流、経験を糧に

### 情報文化学部

先進に学び、未来へつなぐ

### 工学部

特集 創立90周年記念行事  
高校新校舎落成式



記念式典で挨拶する田中理事長

10月21日、リーガロイヤルホテル広島において、学校法人広島国際学院、広島国際学院高等学校の創立90周年及び広島国際学院大学創立50周年の記念式典並びに祝賀会を挙行了しました。議員、自治体、同窓会、後援会、PTAなど多数で臨席のもと、本学院役員や教職員など約500人の関係者らが、創立記念という大きな節目を祝いました。司会はアナウンサーの桂幾子さんに務めていただきました。

君が代斉唱に続いて田中満彦理事長が挨拶に立ち、「創立者の鶴虎太郎は、福岡から上京する際立ち寄った広島で教育活動を始めました。それから素封家である石田米助氏の多大なる支援を受けつつ、多くの若者に教育機会を与えたいという二人の強い思いを持って私立広陵中学校を作ります。広陵中学校から退いた後もその信念は変わらず、昭和2年に本学院の起源である広島高等予備校を国泰寺町に設立しました。原爆により、全て焼失したものの、海田町で復興を遂げ、我が学院は発展をして参りました」とこれまでの歩みを述べました。また「来年は、中学校を開校する予定です。私どもは、これからも時代の要請や社会の負託に応じて、これからの社会で力強く生き抜く人材を育てるために、個性豊かで特色のある教育を行って参ります」と今後のさらなる飛躍を誓いました。

また李木経孝学長も「大学創立から50年、本学の発展のため、いかに多くの英知と熱意が本学に注がれたことが、



学院の功労者、西本名誉学院長に温かい拍手が送られた

改めて思いを馳せ、深く感謝申し上げます。今後も本学が社会的責任を果たすためには、いかにして質の高い教育を行い、人間力も兼ね備えた人材育成を行うかが課題となります」と述べました。

続いて、本学院の功労者として、9月に100歳の誕生日を迎えた西本五郎名誉学院長を紹介しました。その後、岸田文雄衆議院議員、湯崎英彦広島県知事の代理として森永智絵広島県環境局長、日本私立大学協会副会長で学校法人石田学園の石田恒夫理事長、公益財団法人広島県私学振興財団理事長で学校法人山中学園の山中幸平理事長からご祝辞をいただきました。会場にいらっしゃる多くの方々が、本学院はたくさ

んの方々に支えられて90周年を迎えることができたのだと改めて実感しました。

式典に続いて祝賀会を開催しました。広島国際学院高等学校の森崎恒夫校長は挨拶で「さまざまな改革のもとで節目の年を迎えました。その道は決して平坦ではなく、皆様のご支援あってのことと感謝いたします。今日はさらなる発展のスタートとなる日でもあります。今後ともより一層のご支援、ご協力をお願いいたします」と述べました。

続いて、広島国際学院高等学校同窓会の竹内正彦会長の発声で乾杯しました。本学院・高等学校の創立90周年、大学創立50周年に加え、高等学校は新校舎が竣工、さらに今年は中学校も開校予定と、学院の歴史にまた大きな1ページが刻まれました。参列者の方々もみな晴れやかな表情で、重なる慶事を喜んでいました。華やかな祝宴は、広島国際学院大学同窓会の佐藤泉会長の挨拶でお開きとなりました。

## 高校新校舎落成式

創立90周年記念式典に先立ち、高等学校校舎落成式を挙行了しました。

落成式は、新校舎改築に伴い新たに建設した鶴虎太郎メモリアルホールを会場に行われました。高等学校の関係者を中心に多くの方が参列され、式は厳かに執り行われました。



落成式ではま 新校舎完成を祝うテープカット

ず、ご来賓の方によるテープカットを行い、新校舎の完成を祝いました。

田中理事長は挨拶の中で、「高等学校校舎の改築は、平成28年に始まりました。残るクラブハウスや人工芝グラウンド、フェンス等の外構工事も31年2月には完了する予定です。工事の設計・施工を担当していただいた株式会社安藤ハザマの皆様、そしていつもご支援くださる関係者の皆様へ感謝申し上げます。平成31年4月には、中学校も開校する予定です。今後さらに良い学校作りに取り組んで参ります」と述べました。

続いて、広島県私立中学高等学校協会会長で学校法人広陵学園の田中清峰理事長、西田祐三海田町長、株式会社もみじ銀行の小田宏史取締役頭取より、ご祝辞をいただきました。



図書館を見学する出席者

また、落成式が始まる前から、多くの方が高等学校へ足を運んでくださり、新しく完成した学校の施設を見学しておられました。

淡い色の床や壁面に、所々あしらった木材がぬくもりを感じさせる教室、広々と開放感のあるカフェテラス式の食堂、光をいっぱいに取り込む吹き抜けの談話室を備えた図書室など、校舎全体が、建学の精神を具現化するような、明るく優しい雰囲気を醸し出しており、至るところに触れ合いを意識したスペースを確保していることに、見学された皆様からお褒めの言葉を頂戴いたしました。

## 受け継がれる絶品レシピ —石窯で繋がる学生の絆—

教員と学生が課題探求や課外活動の時間を利用して、1年半かけて2013年6月に石窯を完成させました。今では高城祭の名物屋台の一つになっていますが、日常生活で使ったことのない調理設備ですから、最初の高城祭では手探り状態でのスタートでした。その後、窯の操作や管理、ピザのレシピは先輩から後輩に受け継がれ、味や品質は年々向上しています。

当初は食農バイオ・リサイクル学科の学生が中心になって石窯を使っており、後輩への伝承は比較的スムーズでした。



今後も大切な石窯とレシピを伝えていきます

しかし改組の関係で2017年には生産工学科の学生も参加するようになり、学科が違うため普段以上にコミュニケーションが重要になりました。こういう時に頼りになるのは、やはり経験のある先輩です。皆がいてねいに教えてくれたおかげで無事に技術が伝承され、今年度は生産工学科の1・2年生合わせて5人が中心となり、先輩も交えて無事に「絶品!石窯ピザ」を販売できました。新しい体制にリニューアル後も学生の関係が繋がっていくのを見るととても嬉しく思います。



教員もピザ生地づくりに参加

## CAD 利用技術者試験 1 級に合格 —下西さん、最優秀者表彰も

生産工学科3年生の下西慧さんが、先日行われたCAD利用技術者試験1級の合格者のうち、大学・短大・高専部門において最優秀者であったとして表彰されました。

下西さんは昨年からCAD利用技術者試験1級にチャレンジしはじめ、放課後に残って実技練習を地道に繰り返し行いました。試験前は積極的に試験対策講座にも参加して、実技試験だけでなく学科試験の対策もしっかり行いました。この賞を励みにして、今後も新たな資格試験などにチャレンジしてもらえればと思います。



合格証を手にする下西さん

PICK UP!

## 企業講演会

10月12日、生産工学科3年生を対象に、株式会社フォーラムエンジニアリング大学支援推進部国家資格キャリアコンサルタント担当の河口忠夫氏によるエンジニア職セミナーが行われました。機械系の学科を卒業後、半導体メーカーで生産技術職として生産設備開発や量産技術開発を経験してきた講師に、エンジニアのやりがいや仕事の実際を解説し、就職後の定着と成長を見据えた進路選択のヒントについてお話いただきました。



第一設計(株)の講演

また11月2日、生産工学科3年生を対象に、第一設計株式会社代表取締役社長の梅本幸司氏による企業講演会が行われました。長年、三菱重工業関連の設計業務に携わってきた講師が、設計業務の過去・現在・未来をわかりやすく解説くださいました。内容としては、過去は図面を書く作業が設計の大部分であったが、現在は、CADの発達で図面を書く作業は減っていること、さらに未来についてはAIの発達で、設計に必要な人材は、基礎設計をする部分だけになりそうであることと説明いただきました。



三菱重工マシナリーテクノロジー(株)の講演

さらに11月30日、三菱重工マシナリーテクノロジー株式会社の卒業生による企業講演会が行われました。エンジニアリング部解析技術課課長吉森幸浩氏による会社説明の後、本大学工学部機械工学科卒業後、解析技術課機械解析チームに勤められている板村孝史氏と山本正治氏による機械解析の説明がありました。3DCADとともに、構造解析や強度解析も発展し、製品開発になくはならない技術となっています。解析の応用例や有限要素法による解析方法、エンジニアとして気をつけなければならないことを講演いただきました。

先進に学び、未来へつなぐ

## 情報文化学部

### ハロウィンイベントに今年も参加 —横川ゾンビナイト4—

10月26・27日、広島市西区・横川商店街で開催された「横川ゾンビナイト4」に情報デザイン学科の学生たちが参加しました。このイベントには4年連続で参加。今回の来場者は2万1千人でした。

HKGキャラクタープロジェクトの学生が制作したゾンビパネルを街角に設置。また、HKG声プロジェクトの学生は、広島経済大学・FM



横川ゾンビナイト

ハムスターと共同で「横川ゾンビラジオ4」を運営し、会場全体に情報を配信しました。さらに趙研究室からは、「ゾンビVR」を出展し、たくさんの方々にVR体験を楽しんでいただきました。

### ドラゴンフライズパネルお披露目 —3年連続 広島のスポーツをデザインで応援!—



完成したパネルを背に選手と学生が記念の1枚

10月2日、Bリーグ球団・広島ドラゴンフライズ・選手らの大型パネル24枚のお披露目式が広島市西区のアルパーク東棟の広場で行なわれました。J R新井口駅からアルパークにかけてのペデストリアンデッキに掲示する選手の大型パネルを、今回も情報デザイン学科の学生たちがデザインしました。本プロジェクトは、広島ドラゴンフライズ・広島市西区・本学の産官学連携事業として2016年から続いて

います。

デザイン担当の12人の学生たちは、球団や区役所、地域の方々との打ち合わせを重ねながら約4ヶ月がかりで取り組みました。7月の豪雨災害の影響で作業スケジュールが厳しくなりましたが、チームワークで乗り越えました。パネルは1年間掲示される予定です。お近くにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

### サービス接遇検定研修会

サービス接遇検定は、サービス業全般に活かせる資格です。資格には1～3級までであり、サービス業務に対する心構えや接客技術などが学べるほか、就職に役立つ敬語や言葉づかいの基本が学べます。現代社会学科では、3年前からこの受験対策講座を開講しており、現在では全学部の1～4年を対象に募集を行い、これまで50名以上の学生が資格取得にチャレンジしています。

今年度も20名の学生が、11月の検定試験に向けて9月と10月の研修会に参加しました。これから就職活動に臨む3年生の希望者が特に多く、日ごろ使い慣れない「尊敬語、謙譲語、丁寧語」やビジネス用語に戸惑いながらも奮闘する姿が印象的でした。



資格取得を目指し真剣に取り組む学生

PICK UP!

折しも国会で「外国人材」の受け入れ拡大法案が論議されている最中、その労働によって日本の社会や地域を支えている外国人の方々との交流ができたことは、参加した学生にとって非常に有益な経験となったはず。交流させてもらった外国人の皆様、また日本語教室を支えておられるボランティアの皆様、このような機会を提供していただき、本当にありがとうございました。

11月28日に交流したのはベトナム、フィリピン、ブラジル、ラオス、中国などから来日し、海田町やその近隣の自動車メーカーやその関連企業、食品加工工場などで働いているの方々です。参加した学生たちは交流を通じて、国際化やグローバル化という言葉の真相の一端を具体的に理解することができたのではないかと思います。

授業です。その一環として、毎年、海田町の日本語教室を訪問し、日本語を学ぶ外国人の方々との交流を行っています。



外国人の方からお話を伺う学生

現代社会学科の国際コミュニケーション科目「地域国際化論B」は、現代日本における労働やくらしがどのように国際化・グローバル化しているのかを地域という視点から学ぶ

海田町の日本語教室で交流

積極的な学外交流、  
経験を糧に

## 初年次セミナーII「せのがわ学」 西国街道・海田市ガイドの会「海田町の歴史と文化」講演会



卒業生が作ったビデオを鑑賞する学生

10月10日と17日の2週にわたって1年生の総合教育センター科目「初年次セミナーII」の授業で、海田町のボランティア団体「西国街道・海田市ガイドの会」のみなさんに大学の地元の歴史についてお話していただきました。学生にガイドマップのパンフレットが配付され、プロモーションビデオの鑑賞からスタートしました。これらは情報デザイン学科の卒業生が在学中に制作したものです。海田町に今も残る史跡や名家の家屋などについて、伝えられている当時のお話を写真や資料を交えて解説していただきました。学生たちは地元の歴史に興味を持ち、メモを取りながら熱心に聞いていました。西国街道・海田市ガイドの会からは学生たちにボランティア活動への参加協力の依頼があり、学生からも協力したいとの声があがりました。学生が大学の地元の歴史に興味を持ち、地域のボランティア活動へ参加もできる有意義な講演会でした。

## 教員採用候補者選考試験に見事合格！

工学部4年生の杉原悠河さん(県立広島工業高校出身)が、夏に実施された広島県教員採用候補者選考試験で、中学校技術科教員として合格しました。競争倍率3倍強でしたが、持ち前の冷静さと誠実な態度で実力を十分発揮しました。杉原さんは、教職課程の科目修得とアーチェリー部の活動で文武両道の大学生活を送っています。必ず、技術科教員として活躍する人材です。杉原さんは「教員採用試験は、教育実習の先生や大学の先生など多くの方々のご指導で合格でき、ありがとうございました。早めに準備をして余裕を持って勉強し、試験に臨むことができました。未熟な部分がありますので、春からの教員生活でしっかりと学んでいきたいと思います」と話していました。



教員採用試験合格書を手に喜ぶ杉原さん

## ●卒業生8名も合格！

この数年に本学教職課程で教員免許を取得した卒業生が、今回の教員採用試験で、広島県(市)教育委員会に6名(中学校の理科2名・技術1名、工業高校2名、特別支援学校1名)、愛媛県1名(中学校理科)、島根県1名(工業高校)の、計8名も合格しました。卒業生の素晴らしい実績から、学校教育現場での活躍が期待されます。

PICK UP!

## 2018年日本留学 AWARDS に入賞



李木学長(後列右から3人目)と留学生たち

日本留学アワードは、「日本語学校の教職員が外国人留学生に勧めたい進学先(大学・大学院・専門学校)」を選ぶというもので、日本語学校の全国的組織である(一社)日本語教育振興協会が実施しています。

5部門×2地区(東日本・西日本)の10カテゴリーあり、この中の「私立理工系部門(西日本)」で入賞しました。受賞校は大都市圏の大規模校が多い中、本学は中国・四国・九州地方で唯一の受賞校でした。

本学の推薦理由としてポイントが高かったのは、「留学生サポート(学習面・生活面)」、「日本語学校との連携」、「学費面」でした。全学で留学生を受け入れている本学の体制・雰囲気、日本語学校の先生方、とくに本学に学生を送り出してくださっている日本語学校の先生方に評価いただけたものと存じます。あらためて深く感謝申し上げます。

今後とも、外国人留学生の皆さんが、安心して学生生活を送り、学習・研究に励める環境づくりに努力して参ります。

深く広い学びが支える人間力

## 短期大学部

### 2級自動車整備士技術講座 開講式

10月15日、今年度の2級自動車整備士技術講習会の開講式を上瀬野キャンパスで行いました。この講習会は整備士の国家検定実技試験を免除するためのもので、並行して検定学科試験の受験対策も同時に行っています。

開講式では、広島県自動車整備振興会指導部の中川教育課長から、これからの整備士の仕事の重要性や必要性等が話されました。また、李木学長や知名短期大学部長は、約半年間の講習期間を通じて、技術や知識をさらに高めて全員合格を目指してほしいとの激励のお言葉をいただきました。

今年は51名の学生が受講し、学科講習と実技講習を行います。また期間中には、学生を教員に割り当てて行う個人指導も実施され、2月や3月に入ると土日返上して補習や自主勉強を実施します。このようにして毎年、学生と教員が目的に向かって一丸となって取り組み、今年も全員合格を目指して頑張っていきます。



中川教育課長からの説明を受ける学生たち

### 整備のプロを目指して —広島日野自動車工場見学—

9月21日、1年生70名と教職員3名が就職支援授業の一環として、広島日野自動車（株）坂支店の工場見学を行いました。

13時から開会行事が行われ、その後、A組・B組の2班に分かれ、講義と整備工場見学を行いました。

講義では、最新鋭のトラック・バスの安全運転支援システム（例：運転手が体調不良の時、バスが自動で路肩に停止等）の紹介や2020年の東京オリンピックに向けたバスの自動運転技術の紹介がありました。

また、工場見学ではトラックの点検整備をパソコンで診断する様子を詳しく説明していただき、作業の一部を実際に学生に体験をさせていただきました。洞爺湖サミットで使用されたバスの展示もありました。

最後に本社前で「ダカールラリー参戦車両」の前で記念撮影の後、解散しました。

自動車整備士を目指す1年生にとって、普段の講義や実習と、実際の現場との関連性がより明確になった見学でした。



トラックの車検整備を見学する学生

整備士の夢に向かつて発進

PICK UP!

### 全国自動車短期大学研究発表会

8月2日、中日本自動車短期大学（岐阜県）で第50回全国自動車短期大学協会研究発表会が行われました。本短大は中西和雄教授と楠木良治講師の連名で「空燃比フィードバック学習システムの試作と教育効果」という研究をまとめ、楠木講師が発表を行いました。

自動車のエンジンは排気ガスの基準を満たすため複雑な制御を行っており、この制御の仕組みは自動車整備士の資格を取得する上で必須の知識になっています。

この論文は空燃比フィードバック制御に着目し、学生が実体験できる教材を試作して仕組みの理解を深め、教育効果を向上させることを目的としています。専攻科の学生を対象に、アクティブラーニング型の授業を行い、この教材を用いる前後での問題解決レベルを比較した結果、大きな差が生じており、その教育効果が確認できました。会場からはアクティブラーニング型の授業を併用した指導に対し、賞賛のコメントがありました。



発表する楠木講師

## 修学旅行 (10月15日～19日)

### 【北海道】総合学科2年 柳 佳那 (八本松中学校)

北海道1日目は、五稜郭公園や函館山の夜景を見ました。夜景は寒かったです。幻想的でとても感動しました。

2日目は函館朝市で海鮮丼を食べ、大沼国定公園を散策しました。

3日目はアクティビティをしました。インドア体験ではキャラメル作りなどに挑戦しました。またアウトドア体験では命綱を付けて木から木へ移動しました。恐怖から足が動かなくなりましたが、クリアできて良かったです。

4日目は小樽、札幌の班別研修でした。北海道で初めて電車に乗り、広島との違いをたくさん発見しました。

この5日間で普段では体験できなかったことができ、友だちと仲を深めることができました。今後も協力しあいたいです。



アスレチック体験



ひめゆりの塔

### 【沖縄】普通科特進2年 平本 恵莉 (海田西中学校)

待ちに待った沖縄への修学旅行の中、特に強く心に残り、今後に生かしていきたいと思ったことが2つあります。

1つ目は、集団行動において時間やルールを守ることの大切さです。集団行動は自分だけでなく、全体のことを考えながら行動しなければなりません。10分前行動・5分前完了を意識して行動する大切さを再認識しました。

2つ目は命の大切さです。平和学習で、沖縄での戦争について詳しく話を聞きました。今の時代は何でも揃いすぎているが故、そのありがたみを忘れそうになります。恵まれた環境に感謝して生活しようと思いました。

今回、修学旅行で学んだことを、今後に生かし、進路実現の糧にしていきたいです。

### 【台湾】普通科Ⅱ型2年 中谷 友海 (東広島市立西条中学校)

私は今回の修学旅行に台湾を選びました。理由は以前から海外に興味があり、まずは自分の住むアジアを知るべきだと思ったからです。

1日目、最初に思ったことは、日本の外に出ると自分は外国人なのだということでした。そして見るもの、感じるものすべてが新鮮で衝撃的でした。

2日目、この日は現地の大学生との台北市内研修でした。散歩をしながら、道中で写真を撮ったり、お店を見たりと楽しい時間でした。

3日目、現地の高校生と交流をしました。このとき問題だったのが、会話でした。現地の高校生は私たちでも分かるような簡単な英語を使ってくれ、私は、英語は世界の公用語として勉強しなければならないと思いました。



十分(シーフェン)四面ランタン



ダイヤモンドヘッド頂上

### 【ハワイ】普通科Ⅰ型2年 丸本 奈津子 (広島市立白木中学校)

ハワイでは、初日にハワイ大学で語学研修をしました。緊張しつつもなんとか質問ができました。そして戦艦ミズーリ記念館では、ハワイの凄惨な歴史を学びました。

2日目は、ダイヤモンドヘッドに登り、頂上から今まで見たことがない景色を見ました。そしてシーウォーカー体験では、海底で魚に触れるなど、初めての体験をしました。

そして3日目の班別自主研修では、先生がいない中、自分たちで買い物をし、友だちとの最高の思い出となりました。

今回の修学旅行では、学ぶこと、楽しむこと、助け合うこと、協力することができました。家族旅行とは違い、学びがある中で友だちと全力で楽しむことができ、高校生活でのかけがえのない思い出となりました。

## オープンスクール

連日の猛暑が印象深かった2018年。広島国際学院高校も、猛暑に負けない熱いパワーをオープンスクールで披露しました。9月16・17日、本校最大の入試イベントは、昨年を超える2500名以上の中学生・保護者の皆様が来校されました。新校舎、ホールを余すことなく活用し、来校された皆さんの気持ちを掴んだと思います。今後も熱い入試イベントを展開してまいります！



現役生徒による学校説明会

## 国際交流：タイから長期留学生在が来ています

本校にタイより長期留学生在が来ています。普通科1年1組に在籍しているイムさんです。クラスのすべての授業に参加し、日本語の習得に励んでいるところです。11月11日に、第29回世界平和弁論大会に出場し、平和についてのスピーチを日本語でしました。また、日本語能力検定にも12月に挑戦しました。少しずつ日本での生活にも慣れ、友達もできてハッピーな高校生活を送っています。美術部、書道部、茶道部に入り、日本にいる間、できる限り、いろいろなことに挑戦したいと日々頑張っている姿に、本校の生徒たちも勇気もらっています。



スピーチするイムさん



新校舎にお目見えしたモザイクアート「紡ぐ」

「旧校舎」での歴史を紡いで、私たちの未来である「新校舎」での学校生活に、つなげていけるように、このデザインにしました。折紙をコピー用紙に1枚1枚貼っていく作業

た。記念グッズを作成し、模写店の販売員にはこのエンブレムがデザインされた缶バッジをつけました。

### 【公式エンブレム デザインの解説】

- ☆ 背景にあたるバラバラの破片のような模様は、解体された旧校舎のがれきを表しています。また、旧校舎のがれきが集まってまとまると、「サクラテラス」（新校舎食堂）や「さくら橋」など新校舎のイメージとして使われている「桜」になるという意味もあります。
- ☆ 破片のような模様の中には「学校のマーク」「HKG」「2018」の文字が隠されています。
- ☆ 木の幹と枝になる部分は、今年度の文化祭テーマの「紡ぐ」にちなんで、「より」をかけて糸が紡がれている様子を表しています。
- ☆ また木の幹になる部分には、「2018」の文字が隠されています。

11月17〜18日、新校舎に移転してから初めてとなる第57回文化祭を開催しました。新校舎落成記念としてさまざまな企画を行いました。

## 巨大モザイクアート「紡ぐ」

全校で取り組んだ巨大モザイクアート「紡ぐ」もその一つです。新校舎に移転しても、いままで私たちがや私たちの先輩方がお世話になった「旧校舎」への感謝の気持ちを忘れないように、



2018 文化祭デザイン

## 第57回文化祭

は、全校生徒及び全職員で行いました。その作業自体も、今回の文化祭テーマである「紡ぐ」に沿っています。

### 文化祭公式エンブレム制作

今回の文化祭の公式エンブレムは、文化祭に統一感を出すことを主な目的に作成しました。デザインは昨年度まで本校に在籍し、現在は広島国際学院大学でデザインを勉強している卒業生の畑中さくらさんによるものです。



## 中学校開校に向けて

### 私学フェスタを終えて

広島国際学院中学校（認可申請中）開校という新たな挑戦をする本校。10月8日、広島県私学最大の入試説明会である「私学フェスタ」に参加。今年度より中学校募集を加えた広報活動を行っています。会場では、本校の特色教育「百錬錬磨」をアピール。次世代リーダーを生む教育方針に多くの方に興味を持っていただきました。今後も全力で本校の募集活動を展開していきます。



私学フェスタ



学校説明



体験授業

### 広島国際学院中学校 第2回オープンスクール

9月24日、第2回オープンスクールを開催しました。前回7月に実施したオープンスクールを拡充し、今回はより具体的かつ多様性に富んだオープンスクールを実施しました。

まずは教育内容や行事、費用面等について各担当者より説明させていただきました。説明会の後に、各希望先に分かれ、第1回と同様に体験授業を開催しました。

今回は保護者の皆様にも見学していただき、本校の今後の教育活動を直に確認できる形としました。

また、8月より使用可能となりました鶴虎太郎メモリアルホールでは、吹奏楽部の演奏会を実施。本格的なホールを持つ本校の魅力を十分に味わっていただきました。



吹奏楽部の演奏

### 第3回中学校入試説明会を実施しました

11月23日、本校ホールにて「第3回中学校入試説明会」を実施し、当日は保護者・小学生の約200名程度の方が参加されました。



小学生は教室で適性検査対策を受講



真剣な眼差しで教員の解説を聞く小学生

入試前最後の説明会ということもあり、最後の個別相談まで熱心に質問される保護者の皆様が大勢いらっしゃいました。一方、受験を前にして、小学生の皆さんには本校の適性検査対策を受講してもらいました。独特な入試に対して、どのように考えを導き出していくか、効果的な勉強法を知る機会になったと思います。また、適性検査の対策授業を保護者の皆様に知っていただくため、その様子を本校ホールでLIVE中継しました。

本校開学以来、初めての中学校入試実施に向けて、本校教職員は一丸となって日夜検討してきました。4月には志高く、将来に夢をもつ中学生が多く入学してくれることを祈って、今後も準備して参りたいと思います。



熱心に説明を聞く小学生と保護者



授業のライブ中継に見入る保護者

# 広島国際学院レポート

## 第51回高城祭「Re:Start」を終えて

第51回高城祭実行委員会 委員長 村谷 真稀

(生産工学科2年 広島城北高等学校出身)

10月6～7日に広島国際学院大学中野キャンパスにて、第51回高城祭 テーマ「Re:Start」を開催しました。

1日目の当夜祭は台風の影響により、地元の中野東小学校和太鼓同好会による太鼓の演奏と学長・高城祭実行委員長による開演挨拶のみで終了となりました。ご来場いただいた方並びにご関係者の皆様にはたいへんご迷惑をおかけしました。

2日目の終夜祭はK.D.S DANCESCHOOLと広島国際学院大学 ダンス部によるダンスでスタート。お昼からは特別ゲストの「PRML5」さんがライブをしてくださり、特設ステージ前は大きな盛り上がりを見せていました。その次には、611講義室で元プロ野球選手の渡辺弘基さんの講演会が行われ、たくさんの方々が来てくださいました。

特設ステージでは吹奏楽部の演奏会が開かれました。その後、一般参加型の〇×クイズ大会が特設ステージ前で行われました、この企画には、地域の方や本大学の生徒がとても楽しそうに参加してくださっていたので、高城祭実行委員会一同とても楽しく運営ができました。2組目の特別ゲスト「オメでたい頭でなにより」さんが会場全体を巻き込む大規模なライブをしてくださり、最高に盛り上がった状態でエンディングを迎えることができました。フィナーレの花火は去年より数を増やしてもらい、とても迫力のあるエンディングとなりました。

総来場者数は1日目の台風の影響もあり、531名と去年に比べるとかなり少なくなってしまいました。

今年度の第51回高城祭はテーマ「Re:Start」で、半世紀の歴史がある高城祭の今まである伝統を残しつつ、高城祭にご来場いただいた方々及び高城祭を盛り上げるために手伝ってくださる学生や教職員の方々がより楽しめるよう、再びスタートする気持ちでさまざまなことにチャレンジしていこうという思いからこのテーマにしました。私はまだ高城祭を経験するのは2回目で、委員長としても改善する点は沢山ありますが、今回経験したことを活かして来年度の高城祭は今年度よりも盛り上がるようがんばっていこうと思います。

地域の皆様や本大学の学生、教職員の皆様、関係団体の皆様、そして高城祭に参加、来場して下さった皆様、この度は本当にありがとうございました。



スパイシーな串焼き肉も来場者に好評だった

PICK UP!

### 「プロ野球を通して人生を知る」

— 渡辺弘基氏講演会 —

10月7日、中野キャンパス10号館にて元プロ野球選手の渡辺弘基氏による講演会を開催しました。渡辺氏は阪急ブレーブスを経て広島東洋カープに入団。昭和50年のカープ初優勝にも貢献しました。現在はイベント会社を経営する傍ら、講演や野球教室など幅広く活動されています。

9月26日にカープは球団初となるリーグ三連覇を成し遂げ、ファン

の興奮も冷めやらぬ中、本講演「プロ野球を通して人生を知る」もカープから語り起こされました。渡辺氏は冒頭、「今の選手はいいですね。投手がピンチの時にも女性ファンの応援が飛ぶ。昔はそうじゃなかったですから」との直球コメントで会場の笑いを誘いました。本拠地での高い勝率にも表れる通り、ファンの声援が選手の手になるので、ぜひ応援してほしいと話しました。

渡辺氏はカープの赤いチームカラーの由来やマツダスタジアムができた時のエピソードも紹介。また、学生時代から現在に至る自身の経験から信用の大切さを強調しました。人生を山登りに例え、上り坂では頭を垂れ、下り坂では頭を上げることから、謙虚さとプラス思考を持つようにとも語りました。ファンの質問に笑顔で、しかしきっぱりと答える姿が印象的な心に残る時間でした。



渡辺弘基氏

## 愛知工科大学自動車短期大学との相互評価



自動車短期大学部会議室での相互評価で挨拶する愛知工科大学の安田学長

自動車短期大学部は昭和 39 年 (1964 年) 創設以来、自動車整備士育成に携わり、自動車関連業界へ有能な人材を送り続けており、将来においても社会要請に応え続ける責務があります。

自動車短期大学部は 2020 年度に 3 回目の「認証評価」を受審しますが、認証評価は学生育成、大学運営、地域貢献などの実施状況を審査し、短期大学の「適格」or「不適格」を評価する重要な審査で、各短期大学が 7 年毎に受審します。

「認証評価」の準備の一環として、大学も短期大学部も構成が良く似た愛知工科大学自動車短期大学との「相互評価」を平成 30 年度 (2018 年) に実施しました。この「相互評価」は、ミニ認証評価と位置づけており、お互いの直近の自己点検・評価報告書をベースに基準Ⅰ. 建学の精神と教育の効果、基準Ⅱ. 教育課程と学生支援、基準Ⅲ. 教育資源に注力して、相互に評価と受審を行いました。

概略日程は 4 月相互評価の協定書取り交わし、7 月自己点検・評価報告書発行、10 月広島での評価、12 月愛知での評価、今年度末相互評価報告書発行としています。

広島での評価は 10 月 25 ~ 26 日の 2 日間にわたり上瀬野キャンパスで実施され、愛知工科大学自動車短期大学からは、安田孝志学長他 6 名の方が審査に来られ、本短大は李木経孝学長、知名宏短期大学部長他、短大教職員全員が対応しました。審査は事前の質問状に対する回答と追加審議、根拠資料確認、設備及び自動車実習授業の調査・確認など、現場・現物・現実で実施されました。また、初日の審査終了後には業務で参加できなかった教職員も参加し、和やかな雰囲気のもと、情報交換会も実施しました。

広島での評価では率直な情報交換を行うことで、自動車短期大学部が改めるべき点や、学ぶべき点が明確になりました。さらに 12 月愛知での評価 (原稿出筆 11 月末) で得られる貴重な情報を加え、今後の改善活動の具体化と 2020 年度「認証評価」に向けた準備計画の策定を進めて行く予定です。「認証評価」では「相互評価」の対象外とした財務と基準Ⅳ. リーダーシップとガバナンスも審査されることから、今後、田中理事長をはじめ法人本部のご協力をいただき、2020 年度「認証評価」での「適格」獲得を目指します。

		1月	2月	3月	4月
※赤字は公開行事です 今後の主な行事予定	大学	9 授業開始 31 一般入試 (前期 A)	1 一般入試 (前期 B) 9 【現社】卒業論文報告会 12 学内業界研究セミナー (~13) 15 【情ア】卒業研究・卒業制作選抜展 (~17 アステールプラザ市民ギャラリー) 27 教育シンポジウム (~28)	8 一般入試後期 19 卒業証書・学位記授与式	5 入学宣誓式
	短大	7 授業開始 10 合同企業研究会 (~11) 19 オープンキャンパス 22 後期期末試験 (~24)	1 推薦入試 16 オープンキャンパス	19 卒業証書・学位記授与式 26 オープンキャンパス	5 入学宣誓式
	高校	7 始業式 24 【3年】卒業試験 (~31)	1 推薦入試 11 マラソン大会 12 一般入試 (~13)	1 卒業式	6 始業式 8 入学式
	中学	23 入試Ⅰ (特待生入試) 26 入試Ⅱ (適性検査型入試)	3 第1回中学新入生登校日	24 第2回中学新入生登校日	8 入学式

●この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

●高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせください。 TEL:082-820-2536

発行/学校法人広島国際学院 法人本部  
編集協力/学生広報スタッフ  
住所: 〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目 20-1 電話: (082)820-2345